

世界中のオリンピックをもてなしたカトラリー 福祉・教育の現場での活用を開始します

－レガシーとして未来へ引き継いでいきます－

東京2020オリンピック・パラリンピック大会の選手村食堂では、燕市でつくられた「おもてなしカトラリー」が使用され、世界中の選手を「おもてなし」しました。使い手に配慮したサイズや形状、トキが真っ直ぐに飛翔する様と桜をあしらったデザインによりメイドイン燕の魅力を世界へ発信する役割を果たし、カトラリーは本市へ戻ってきました。まずは市内の福祉施設や教育の現場での活用を開始するとともに、今後さらにレガシーを未来へ引き継いでいくべく活用を検討していきます。

【「おもてなしカトラリー」活用の概要】

1. 福祉施設等での活用

市内の福祉施設に無償貸与し、配食での使用や、展示用に活用します。

※展示用については、準備が出来次第、順次対応。

＜対象施設等＞

- ・こども食堂
- ・障害福祉サービス事業所
- ・高齢福祉施設
- ・つばめアレルギーっ子クラブ ※試食会用



2. 学校給食での使用

市内小中学校の学校給食で、子どもたちにスプーンを使ってもらい、大会レガシーを伝えていきます。

＜使用時期＞令和4年1月の学校給食週間の1日

※オリンピック・パラリンピックに関連したメニューを予定



選手村食堂での様子
(モンゴル国パラアーチェリー代表選手)

3. 山形県南陽市での活用

平成27年に災害時の相互応援協定を結び、産業や観光でも交流の深い南陽市にお送りし、様々な活用を通してカトラリーに込めた想いを共有します。

＜活用用途＞小中学校の学校給食、調理実習等の授業、学年行事など

本件についてのお問い合わせ先
産業振興部 商工振興課：山崎・永井
電話：0256-77-8232（直通）